

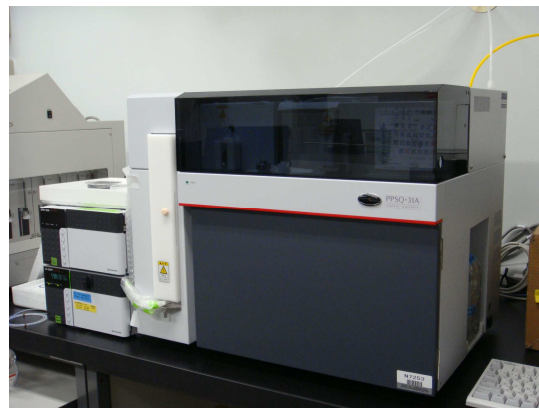
ペプチドシーケンサー依頼分析サービス

(島津・PPSQ-31A 型, 平成 22 年設置)

【概 要】

数 pmol レベルのタンパク質(ペプチド)試料について、N末端からのアミノ酸配列を 20 残基程度まで自動的に決定する装置である。近年可能となった質量分析装置でのアミノ酸配列決定と比較すると、以下の特長を持つ。

- ・ 蛋白質そのまま、分析する事が可能である。
- ・ まったく同じ質量数を有する Ile と Leu を識別できる。
- ・ Disulfide 結合の有無とその位置が、決定できる。
- ・ 決定された配列の信頼性が非常に高く、確実なアミノ酸配列が決定できる。
- ・ 特にデータベースに登録されていない蛋白質の同定・アミノ酸配列の確定には有用である。



【分析できる試料】

サンプル形態: PVDF 膜にブロットした蛋白質, または液体

サンプル量の目安: 読みたい残基数 x 1 pmole 以上 (数 pmole ~ 200 pmole 程度まで)

注意 ・SDS-PAGE ゲルから PVDF 膜へブロッティング収率は、10%以下になる事がある。
・N 末端修飾(アセチル化, ピログルタミン化等)された蛋白質は、そのままでは分析できない。

【利用方法】

依頼分析 (学内および学外):

「測定依頼書兼報告書」と共に、試料を分析計測分野事務室(204 号室)へお持ち下さい。

測定依頼書兼報告書は下記の分析計測分野ホームページよりダウンロードできます。

学内依頼分析料金: 料金表(別紙)をご参照ください

共同利用も可能です (学内のみ):

最初 2-3 回トレーニングが必要。その後は大学連携研究設備ネットワークシステムより予約して下さい。

学内共同利用料金: 料金表(別紙)をご参照ください

【支払い方法】 科研費払い(4~12 月のみ)、運営費交付金払いから選択可能

【学外利用】 依頼分析を受付けています。分析計測分野までご連絡下さい (TEL 086-251-8746)。

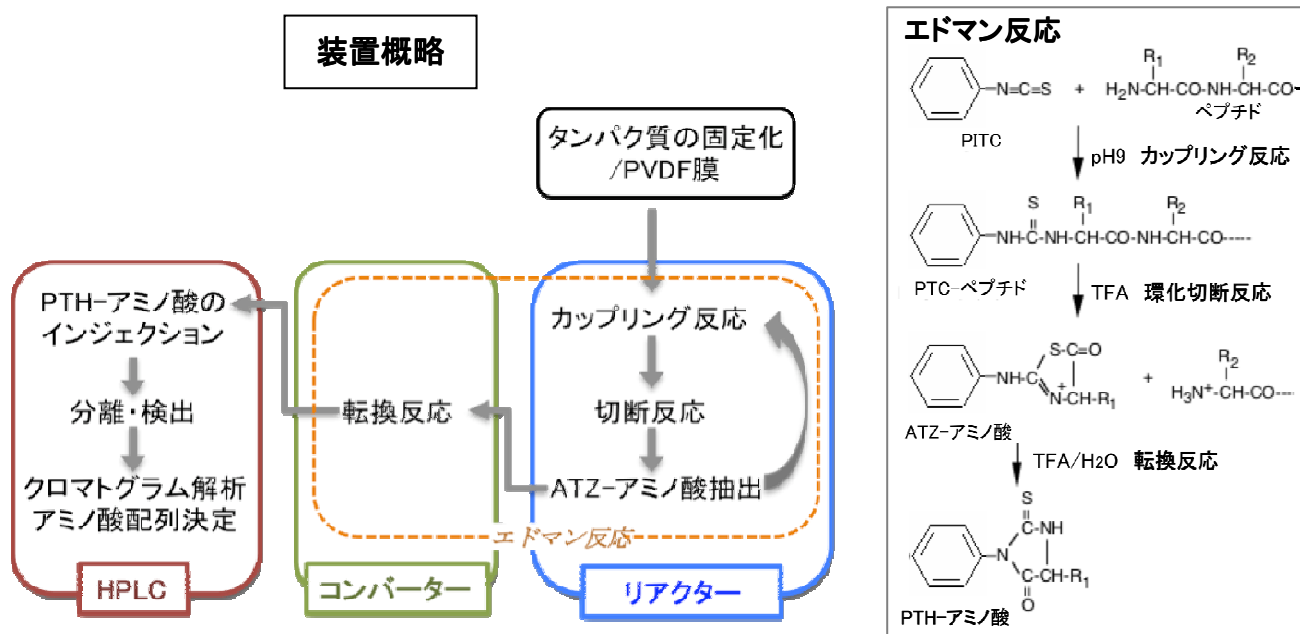
お問い合わせは...

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1, 理学部コラボレーション棟内
岡山大学自然生命科学研究支援センター分析計測分野 (086-251-8747)

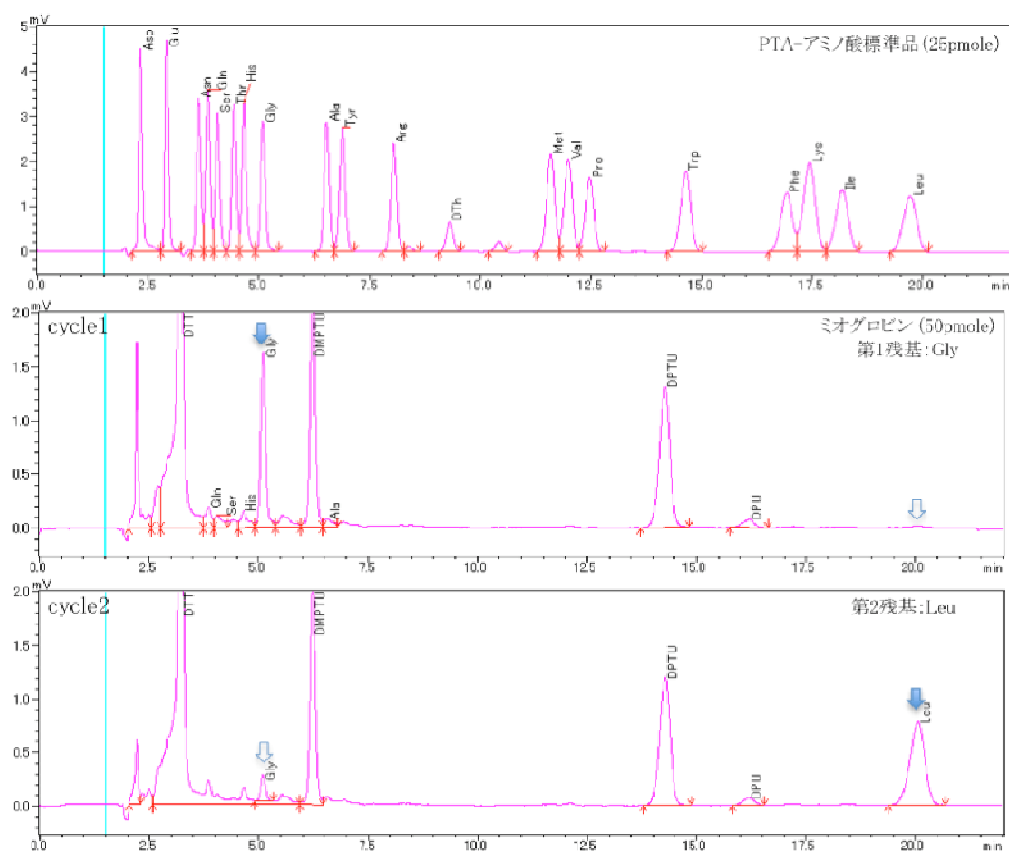
URL: <http://kikibun1.kikibun.okayama-u.ac.jp/home.html>

担当: 多田 宏子 (内線 8746), (e-mail: tadahrk@cc.okayama-u.ac.jp)

塩川 つぐみ (内線 8747), (e-mail: shioka-t@cc.okayama-u.ac.jp)



【データ例】



上記ミオグロビン（50pmole）の測定例では、cycle1 と cycle2 のクロマトグラムを比較して、cycle1 に見られ cycle2 に減少するピーク(Gly)が一残基目、cycle2 に出現するピーク(Leu)が2残基目と自動判定される。